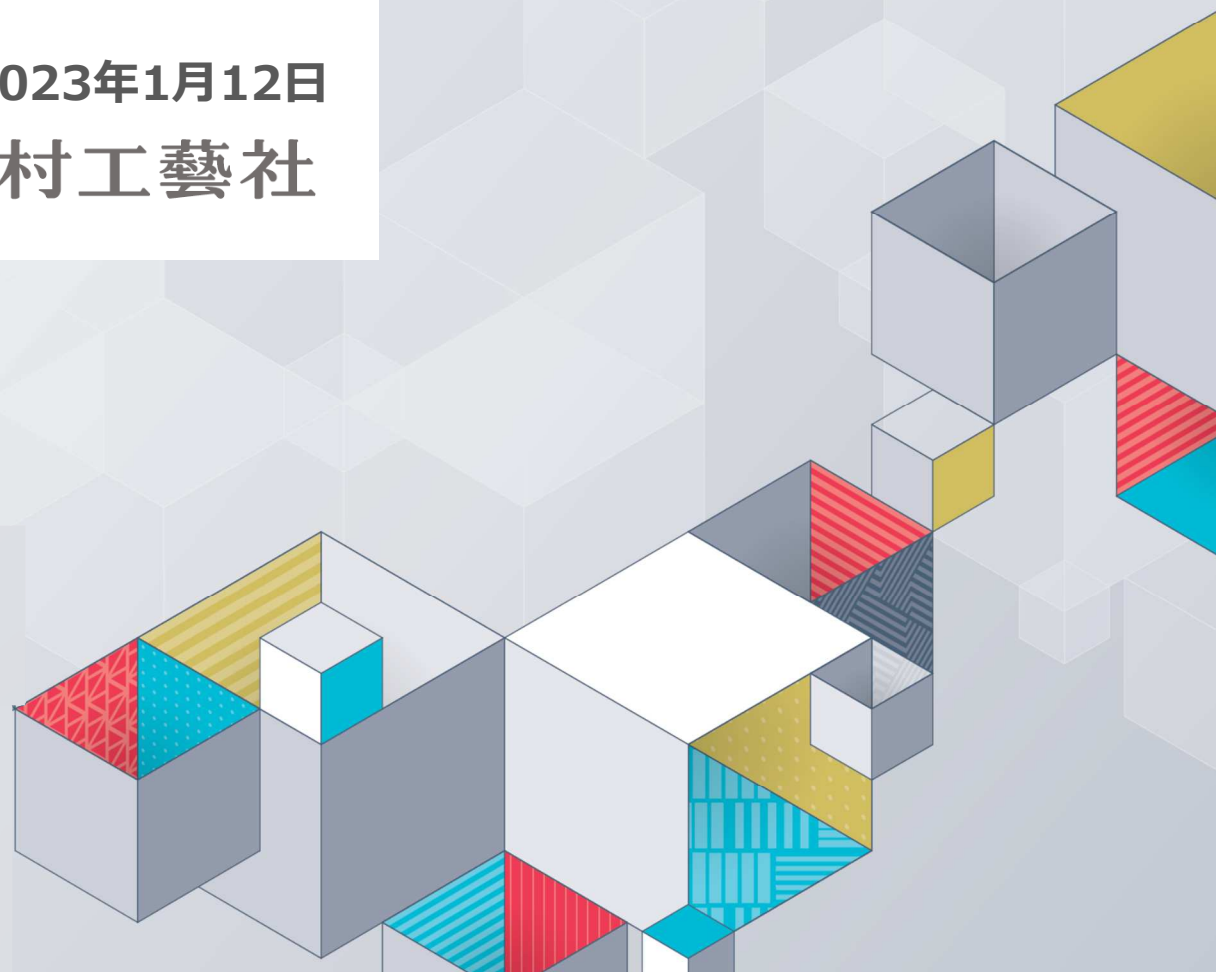


2022年度
第3四半期決算説明資料

2023年1月12日

株式会社 乃村工藝社



1. 2022年度 第3四半期決算概要
2. 2022年度 第3四半期決算補足資料
3. 当社グループの概要

将来の見通しに関する注意事項

記載されている業績予想などの将来に関する記述は、作成日現在において入手可能な情報にもとづき、当社が合理的と判断したものです。潜在的なリスクや不確実性が含まれているため、実際の成果や業績は記載の予想と異なる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

1. 2022年度 第3四半期決算概要

2022年度 第3四半期 連結業績ハイライト

- 売上高は、前年同期に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連等の大型案件の実績があったものの、当期の経済活動の制限緩和にともない、商業施設分野および余暇施設市場等において需要回復の兆しがみられ増収となった。
- 営業利益は、採算性の高い大型案件が減少したことにより、前年同期に比べ減益となった。

(百万円)	2021年度		2022年度		
	3Q	対売上高 構成比	3Q	対売上高 構成比	前年同期比
売上高	74,770	100.0%	76,846	100.0%	+2,075 (+2.8%)
売上総利益	14,159	18.9%	12,935	16.8%	△1,223 (△8.6%)
営業利益	3,147	4.2%	1,821	2.4%	△1,326 (△42.1%)
経常利益	3,289	4.4%	1,932	2.5%	△1,356 (△41.2%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,403	3.2%	1,366	1.8%	△1,036 (△43.1%)

売上高・売上総利益

①売上高

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
売上高	74,770百万円	76,846百万円	+2,075百万円 (+2.8%)

- 百貨店や大型施設などを手掛けた商業施設分野、広報・販売促進市場および余暇施設市場の需要回復により売上高が増加、前年同期に比べ2.8%の増収となった。

②売上総利益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
売上総利益	14,159百万円	12,935百万円	△1,223百万円 (△8.6%)
<売上総利益率>	18.9%	16.8%	△2.1ポイント

- 売上総利益率は、各市場分野において採算性の高い大型案件が減少したことにより2.1ポイント低下し16.8%となった。

営業利益

① 販売管理費

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
人件費	7,234百万円	7,115百万円	△119百万円 (△ 1.6%)
経費	3,777百万円	3,998百万円	+221百万円 (+ 5.9%)
販売管理費	11,011百万円	11,113百万円	+102百万円 (+ 0.9%)
<販売管理費比率>	14.7%	14.4%	△0.3ポイント

- 販売管理費は、人員減により人件費は減少したが、行動費およびグループ再編費用等による経費の増加により、前年同期に比べ0.9%増加となった。販売管理費比率は、売上高の増加により0.3ポイント低下し14.4%となった。

② 営業利益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
営業利益	3,147百万円	1,821百万円	△1,326 百万円 (△42.1%)

- 営業利益は、売上総利益率低下および販売管理費増加が影響し、前年同期に比べ42.1%の減益となった。

経常利益

① 営業外損益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
営業外収益	141百万円	110百万円	△30百万円
営業外費用	0百万円	－ 百万円	△ 0百万円

- 営業外収益は、受取配当金等の減少により、減少した。
- 営業外費用は、為替差損の減少により、減少した。

② 経常利益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
経常利益	3,289百万円	1,932百万円	△1,356百万円 (△41.2%)

- 経常利益は、営業利益の減少にともない前年同期に比べ41.2%の減益となった。

四半期純利益

① 特別損益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
特別利益	453百万円	9百万円	△443百万円
特別損失	65百万円	3百万円	△62百万円

- 特別利益は、投資有価証券の売却益が減少したことにより、減少した。
- 特別損失は、投資有価証券評価損が生じたものの、前年同期に新型コロナの影響を受けた飲食・物販事業の臨時休業による損失等が減少したことにより、減少した。

② 法人税等・四半期純利益

	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比
法人税等	1,279百万円	572百万円	△706百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,403百万円	1,366百万円	△1,036百万円 (△43.1%)

- 四半期純利益は、経常利益の減少にともない前年同期に比べ43.1%の減益となった。

市場分野別の売上高

- 商業施設分野では、海外ブランドなどの店舗改装が増加した専門店市場、前年同期に比べ改装や催事等の需要が回復した百貨店・量販店市場、都市型商業施設の新装・改装案件が回復している複合商業施設市場が増収となった。
- 前年同期に複数の大型案件を完工した博物館・美術館市場、博覧会・イベント市場が減収となったが、企業PR施設の大型案件やホテル、テーマパーク等を手掛けた、広報・販売促進市場、余暇施設市場が増収となった。

	2021年度3Q		売上 総利益率	2022年度3Q		売上 総利益率
	金額(百万円)	前年同期比		金額(百万円)	前年同期比	
専門店市場	18,760	△4.7%	↓16.1%	19,115	+1.9%	↓ 13.9%
百貨店・量販店市場	3,447	+37.6%	↑24.7%	4,431	+28.6%	↓ 19.6%
複合商業施設市場	4,394	△49.8%	↓18.0%	6,988	+59.0%	↓ 15.7%
広報・販売促進市場	5,460	△49.1%	↑20.5%	6,927	+26.9%	↓ 19.8%
博物館・美術館市場	8,174	+45.3%	↑21.1%	7,817	△4.4%	↑ 22.1%
余暇施設市場	5,439	△38.0%	↑15.4%	11,362	+108.9%	↑ 16.4%
博覧会・イベント市場	11,675	+799.9%	↓18.7%	2,920	△75.0%	↓ 17.5%
その他市場	17,418	+17.7%	↑20.8%	17,283	△0.8%	↓ 16.4%
合 計	74,770	+3.6%	↑18.9%	76,846	+2.8%	↓ 16.8%

※「飲食・物販事業」は、グループ事業の再編に伴い単一セグメントに変更したため、「その他市場」に統合しました。

市場分野別の受注高・受注残高

- 受注高は、都市再開発案件の受注があった複合商業施設市場、企業PR施設やショールームの大型案件の受注があった広報・販売促進市場、ホテルやテーマパークの大型受注があった余暇施設市場などが増加し、前年同期に比べ19.7%増加となった。
- 受注残高は、大型案件を受注した複合商業施設市場、広報・販売促進市場、余暇施設市場が増加したものの、前年同期に手持ちの大型案件が含まれていた博物館・美術館市場、博覧会・イベント市場が大きく減少し、前年同期と同レベルの554億円（0.8%減）となった。

	2021年度3Q		2022年度3Q		受注高 前年同期比	受注残高 前年同期比
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)		
専門店市場	19,722	8,207	20,190	7,217	+2.4%	△12.1%
百貨店・量販店市場	4,976	2,621	5,290	1,684	+6.3%	△35.7%
複合商業施設市場	6,036	4,865	11,892	7,565	+97.0%	+55.5%
広報・販売促進市場	4,910	2,373	11,860	6,585	+141.5%	+177.4%
博物館・美術館市場	7,575	8,306	6,700	3,947	△11.6%	△52.5%
余暇施設市場	12,326	12,462	15,755	16,128	+27.8%	+29.4%
博覧会・イベント市場	3,800	4,315	3,411	829	△10.2%	△80.8%
その他市場	21,482	12,763	21,659	11,491	+0.8%	△10.0%
合 計	80,831	55,916	96,760	55,450	+19.7%	△0.8%

2022年度 連結業績予想

- 2022年度 通期業績予想については、ロシア・ウクライナ情勢等がもたらす経済・物価への影響により、受注採算の低下および資材価格の上昇にともなうコスト増加等による利益率低下を想定している。

(百万円)	2021年度			2022年度(予想)		
	通期	対売上高 構成比	前期比	通期	対売上高 構成比	前期比
売上高	111,081	100.0%	+3.1%	110,000	100.0%	△ 1.0%
営業利益	5,431	4.9%	+11.2%	4,500	4.1%	△ 17.2%
経常利益	5,594	5.0%	+11.6%	4,550	4.1%	△ 18.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,984	3.6%	+29.7%	2,950	2.7%	△ 26.0%
1株当たり配当金	28.00円	—	+3.00円	25.00円	—	△ 3.00円

※普通配当25円、記念配当3円

2. 2022年度 第3四半期決算補足資料

【前期末比較】連結貸借対照表

		2021年度末		2022年度3Q末			ポイント
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	前期末比	
資 産	流動資産	64,913	82.2%	61,883	81.4%	△3,030 △4.7%	収益認識会計基準適用により、棚卸資産が減少、また配当金および税金の支払いなどで現預金が減少したことにより30億30百万円減少。
	固定資産	14,053	17.8%	14,108	18.6%	+54 +0.4%	投資有価証券の取得などにより54百万円増加。
	資産合計	78,967	100.0%	75,991	100.0%	△2,975 △3.8%	
負 債 純 資 産	流動負債	25,117	31.8%	22,901	30.1%	△2,215 △8.8%	買掛金や税金の支払いなどにより22億15百万円減少。
	固定負債	5,173	6.6%	4,975	6.6%	△197 △3.8%	退職給付に係る負債の減少などにより1億97百万円減少。
	負債合計	30,290	38.4%	27,877	36.7%	△2,412 △8.0%	
	純資産	48,677	61.6%	48,113	63.3%	△563 △1.2%	配当金の支払いなどにより5億63百万円減少。
	負債純資産合計	78,967	100.0%	75,991	100.0%	△2,975 △3.8%	

【前年同期比較】連結損益計算書

第3四半期	2021年度		2022年度				ポイント
	金額 (百万円)	対売上高 構成比	金額 (百万円)	対売上高 構成比	前年同期比		
売上高	74,770	100.0%	76,846	100.0%	+2,075	+2.8%	商業施設分野や広報・販売促進市場、余暇施設市場の需要回復にともない20億75百万円の増収。
売上総利益	14,159	18.9%	12,935	16.8%	△1,223	△8.6%	採算性の高い大型案件の減少および受注採算の低下により総利益率が2.1ポイント低下し、12億23百万円減少。
販売管理費	11,011	14.7%	11,113	14.4%	+102	+0.9%	人員減により人件費が減少したものの、需要回復による行動費増およびグループ再編費用等により経費が増加し、1億2百万円増加。
営業利益	3,147	4.2%	1,821	2.4%	△1,326	△42.1%	売上高は増加したものの、売上総利益率低下および販売管理費が増加したことにより減益。
経常利益	3,289	4.4%	1,932	2.5%	△1,356	△41.2%	営業利益の減少により減益。
特別利益	453	0.6%	9	0.0%	△443	△97.8%	投資有価証券売却益の影響により4億43百万円の減少。
特別損失	65	0.1%	3	0.0%	△62	△95.1%	前年同期にあった新型コロナの影響による飲食・物販事業の臨時休業にともなう損失等が減少。
親会社株主に帰属する 四半純利益	2,403	3.2%	1,366	1.8%	△1,036	△43.1%	経常利益の減少により減益。

【前年同期比較】市場分野別 売上高・売上総利益率

第3四半期	2021年度			2022年度			ポイント
	売上高		売上 総利益率	売上高		売上 総利益率	
	金額 (百万円)	前年 同期比		金額 (百万円)	前年 同期比		
専門店市場	18,760	△4.7%	16.1%	19,115	+1.9%	↓13.9%	海外ブランド、スポーツブランド店舗などの新装・改装案件を手掛け増収。
百貨店・量販店市場	3,447	+37.6%	24.7%	4,431	+28.6%	↓19.6%	百貨店の改装や催事装飾業務等の需要が回復したことにより増収。
複合商業施設市場	4,394	△49.8%	18.0%	6,988	+59.0%	↓15.7%	大型商業施設の改装案件を手掛け増収。
広報・販売促進市場	5,460	△49.1%	20.5%	6,927	+26.9%	↓19.8%	企業PR施設およびショールーム等の新装・改装案件を手掛け増収。
博物館・美術館市場	8,174	+45.3%	21.1%	7,817	△4.4%	↑22.1%	歴史博物館や自然史博物館等を手掛けたものの、前年同期に博物館の大型案件を計上したことなどにより減収。
余暇施設市場	5,439	△38.0%	15.4%	11,362	+108.9%	↑16.4%	ホテル、テーマパークの大型案件を手掛け増収。
博覧会・イベント市場	11,675	+799.9%	18.7%	2,920	△75.0%	↓17.5%	前年同期に東京2020大会関連の案件等があった影響により減収。
その他市場	17,418	+17.7%	20.8%	17,283	△0.8%	↓16.4%	オフィス環境整備の案件等を手掛けたものの、前年同期に大型案件を完工したこと等により減収。
合 計	74,770	+3.6%	18.9%	76,846	+2.8%	↓16.8%	

※「飲食・物販事業」は、グループ事業の再編に伴い単一セグメントに変更したため、「その他市場」に統合しました。

【前年同期比較】市場分野別 売上高・受注高・受注残高

(百万円)

第3四半期	2021年度	2022年度	前年同期比	
■ 専門店市場				
売上高	18,760	19,115	+354	+1.9%
受注高	19,722	20,190	+468	+2.4%
受注残高	8,207	7,217	△989	△12.1%
■ 百貨店・量販店市場				
売上高	3,447	4,431	+984	+28.6%
受注高	4,976	5,290	+313	+6.3%
受注残高	2,621	1,684	△936	△35.7%
■ 複合商業施設市場				
売上高	4,394	6,988	+2,593	+59.0%
受注高	6,036	11,892	+5,855	+97.0%
受注残高	4,865	7,565	+2,700	+55.5%
■ 広報・販売促進市場				
売上高	5,460	6,927	+1,466	+26.9%
受注高	4,910	11,860	+6,949	+141.5%
受注残高	2,373	6,585	+4,212	+177.4%

(百万円)

第3四半期	2021年度	2022年度	前年同期比	
■ 博物館・美術館市場				
売上高	8,174	7,817	△357	△4.4%
受注高	7,575	6,700	△875	△11.6%
受注残高	8,306	3,947	△4,359	△52.5%
■ 余暇施設市場				
売上高	5,439	11,362	+5,923	+108.9%
受注高	12,326	15,755	+3,428	+27.8%
受注残高	12,462	16,128	+3,665	+29.4%
■ 博覧会・イベント市場				
売上高	11,675	2,920	△8,754	△75.0%
受注高	3,800	3,411	△388	△10.2%
受注残高	4,315	829	△3,485	△80.8%
■ その他市場				
売上高	17,418	17,283	△135	△0.8%
受注高	21,482	21,659	+177	+0.8%
受注残高	12,763	11,491	△1,272	△10.0%

【四半期推移】業績サマリー

(百万円)

	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	20,785	22,943	31,040	36,311	22,287	25,196	29,361	
売上総利益	3,861	4,418	5,879	6,536	3,806	4,553	4,576	
売上総利益率	18.6%	19.3%	18.9%	18.0%	17.1%	18.1%	15.6%	
販売管理費	3,767	3,591	3,652	4,252	3,742	3,576	3,795	
販売管理費比率	18.2%	15.7%	11.8%	11.7%	16.8%	14.2%	12.9%	
営業利益	93	827	2,227	2,283	64	976	781	
営業利益率	0.4%	3.6%	7.2%	6.3%	0.3%	3.9%	2.7%	
経常利益	165	864	2,258	2,305	143	998	791	
経常利益率	0.8%	3.8%	7.3%	6.3%	0.6%	4.0%	2.7%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14	708	1,680	1,581	137	692	536	
親会社株主に帰属する 四半期純利益率	0.1%	3.1%	5.4%	4.4%	0.6%	2.7%	1.8%	
受注高	28,936	28,088	23,807	21,861	32,794	32,451	31,514	
受注残高	57,607	62,943	55,916	41,683	45,531	52,841	55,450	

【四半期推移】 市場分野別 売上高

(百万円)

	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
専門店市場	6,199	4,926	7,634	8,388	5,702	6,002	7,410	
百貨店・量販店市場	758	997	1,690	2,978	1,338	955	2,137	
複合商業施設市場	1,837	1,035	1,522	3,541	2,135	2,560	2,291	
広報・販売促進市場	1,742	1,734	1,983	2,524	2,220	1,943	2,763	
博物館・美術館市場	4,050	2,684	1,439	2,590	2,585	2,600	2,630	
余暇施設市場	1,993	1,240	2,206	2,689	2,555	3,429	5,377	
博覧会・イベント市場	297	2,217	9,160	4,758	842	705	1,373	
その他市場	3,906	8,107	5,404	8,839	4,907	6,999	5,376	
合 計	20,785	22,943	31,040	36,311	22,287	25,196	29,361	

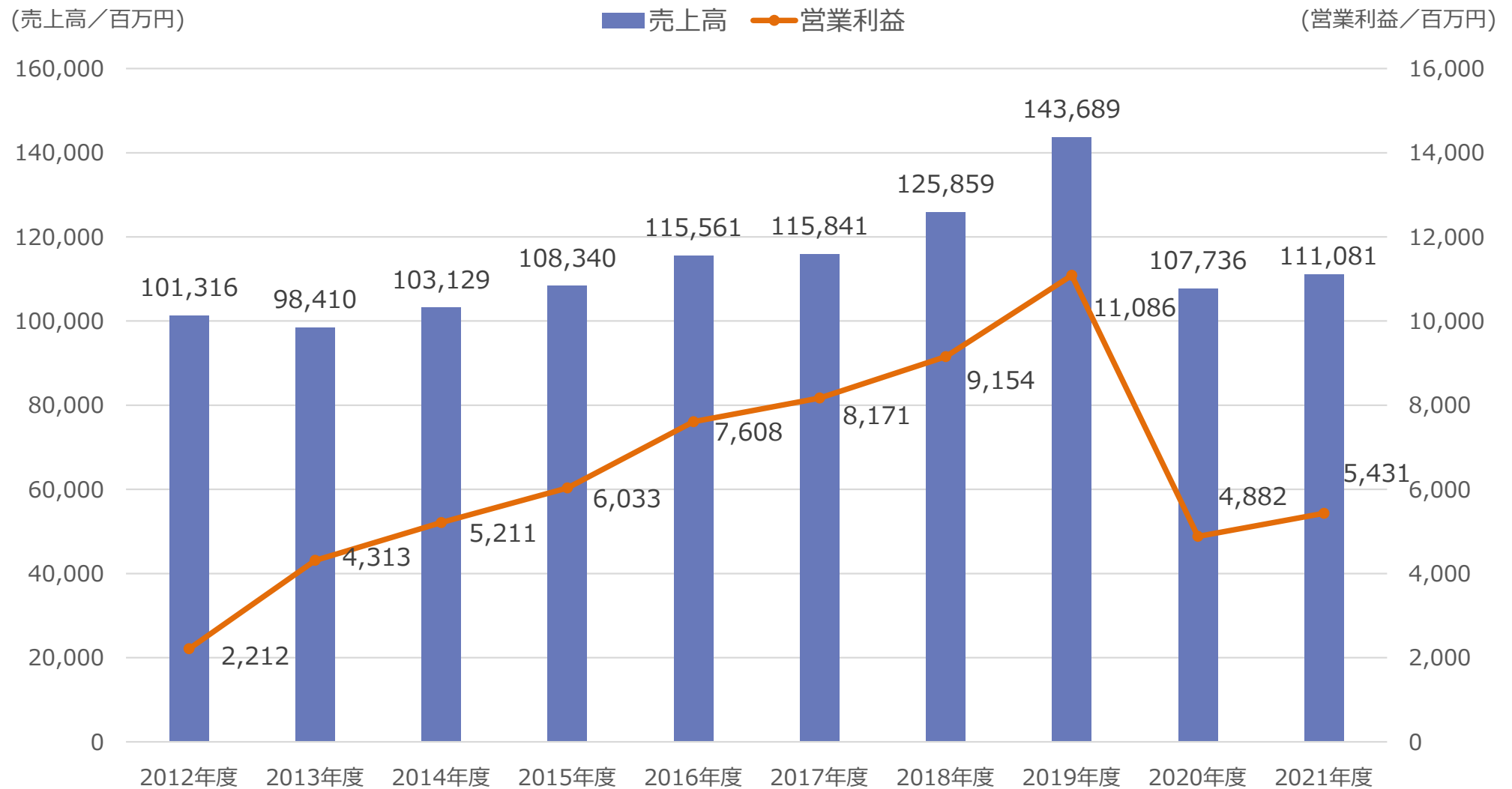
※「飲食・物販事業」は、グループ事業の再編に伴い単一セグメントに変更したため、「その他市場」に統合しました。

【四半期推移】 市場分野別 受注高・受注残高

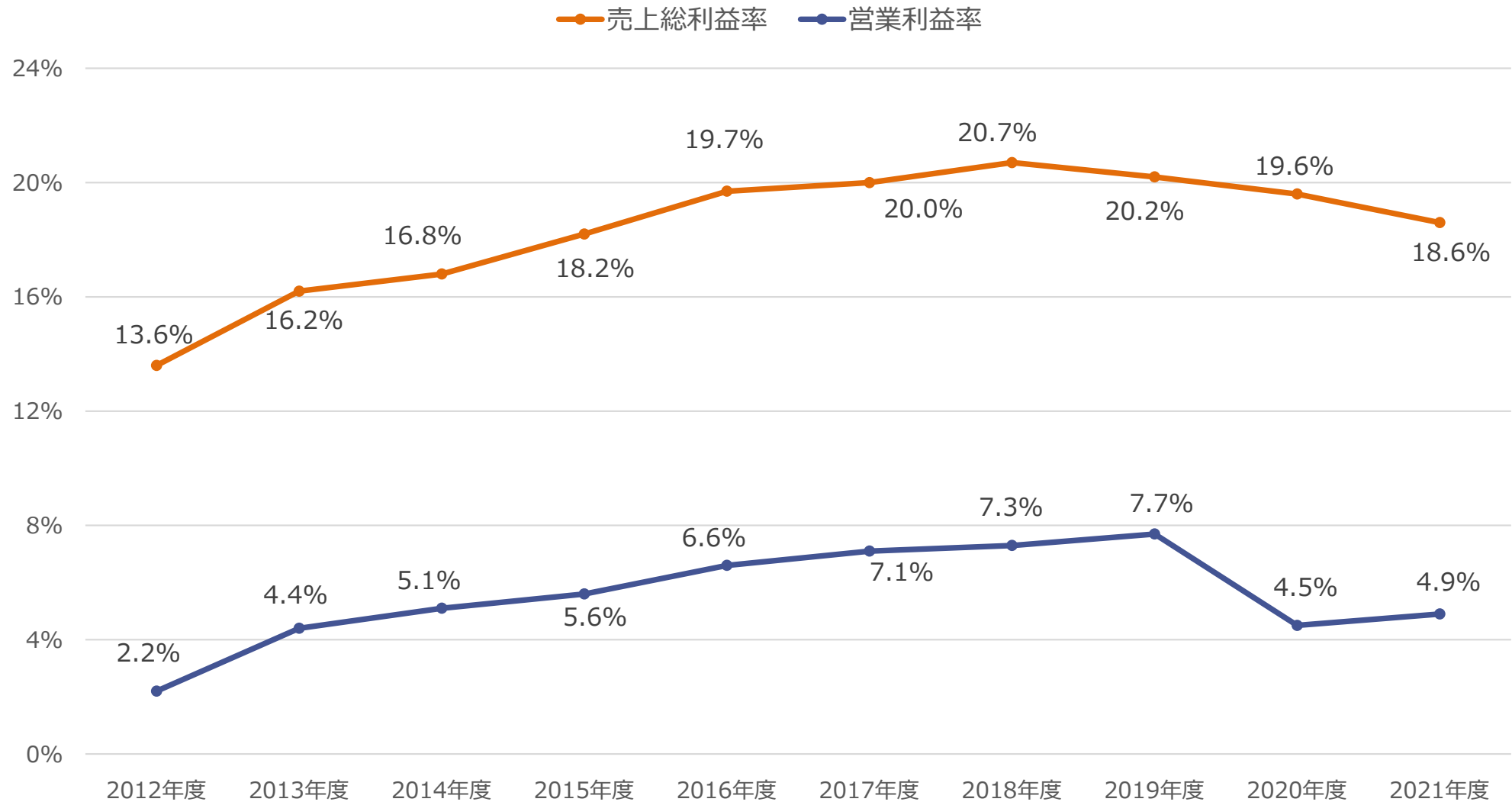
(百万円)

	2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
■ 受注高								
専門店市場	5,560	6,025	8,136	6,979	5,256	5,937	8,996	
百貨店・量販店市場	1,213	2,730	1,036	1,292	1,261	2,299	1,729	
複合商業施設市場	876	2,340	2,819	2,382	2,727	5,714	3,450	
広報・販売促進市場	743	2,404	1,762	2,047	8,086	1,364	2,409	
博物館・美術館市場	4,374	2,141	1,059	537	3,175	1,496	2,028	
余暇施設市場	5,649	4,445	2,231	3,095	4,004	7,545	4,205	
博覧会・イベント市場	2,969	432	398	824	847	1,313	1,250	
その他市場	7,547	7,567	6,366	4,704	7,434	6,780	7,444	
合計	28,936	28,088	23,807	21,861	32,794	32,451	31,514	
■ 受注残高								
専門店市場	6,606	7,705	8,207	6,797	5,185	5,175	7,217	
百貨店・量販店市場	1,547	3,279	2,621	935	748	2,092	1,684	
複合商業施設市場	2,262	3,568	4,865	3,706	3,252	6,407	7,565	
広報・販売促進市場	1,924	2,594	2,373	1,897	7,519	6,939	6,585	
博物館・美術館市場	9,229	8,686	8,306	6,251	5,654	4,550	3,947	
余暇施設市場	9,232	12,437	12,462	12,868	13,184	17,301	16,128	
博覧会・イベント市場	14,862	13,077	4,315	381	344	952	829	
その他市場	11,943	11,594	12,763	8,844	9,642	9,423	11,491	
合計	57,607	62,943	55,916	41,683	45,531	52,841	55,450	

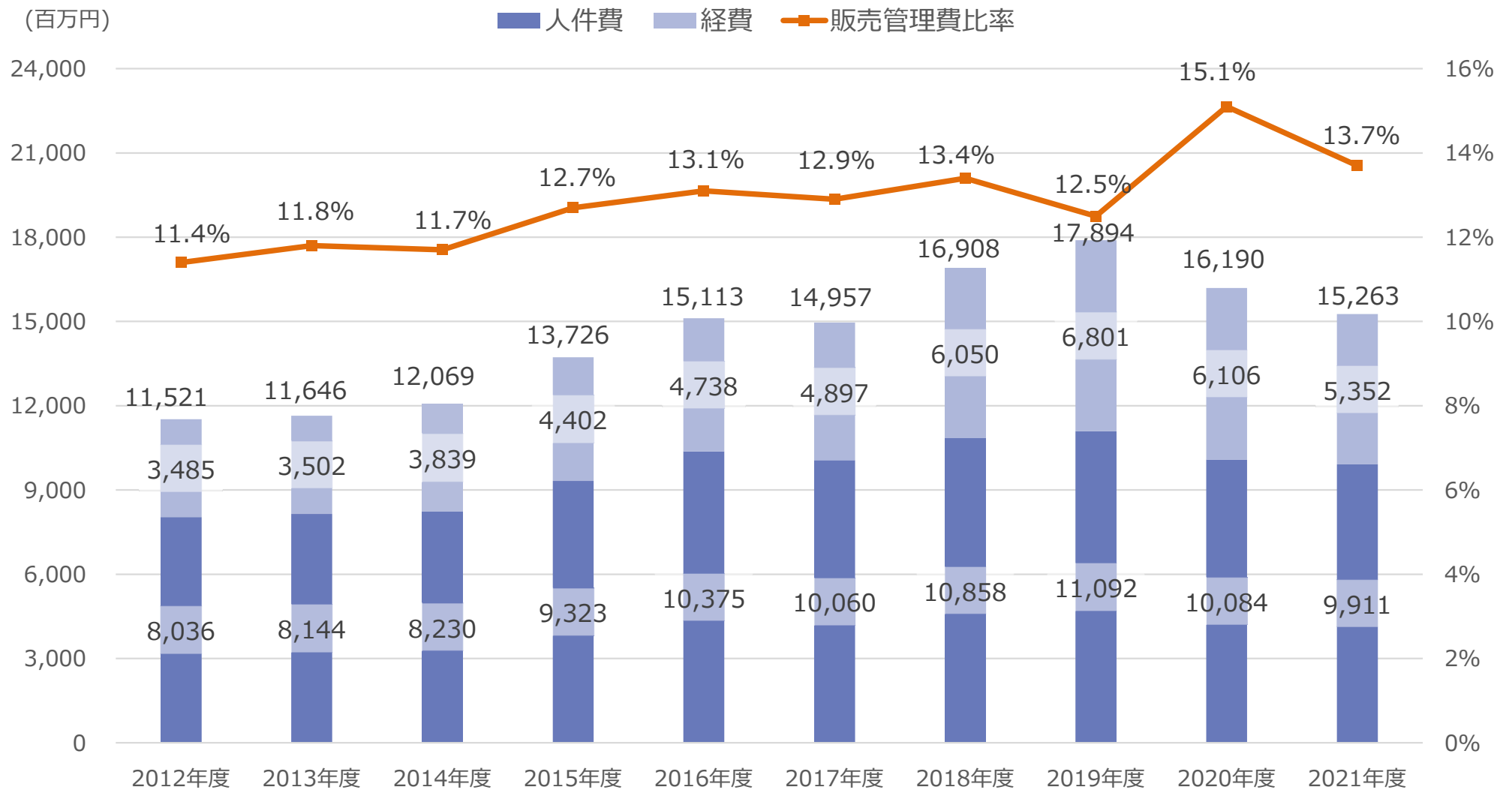
【通期推移】 売上高・営業利益



【通期推移】 売上総利益率・営業利益率



【通期推移】 販売管理費・販売管理費比率

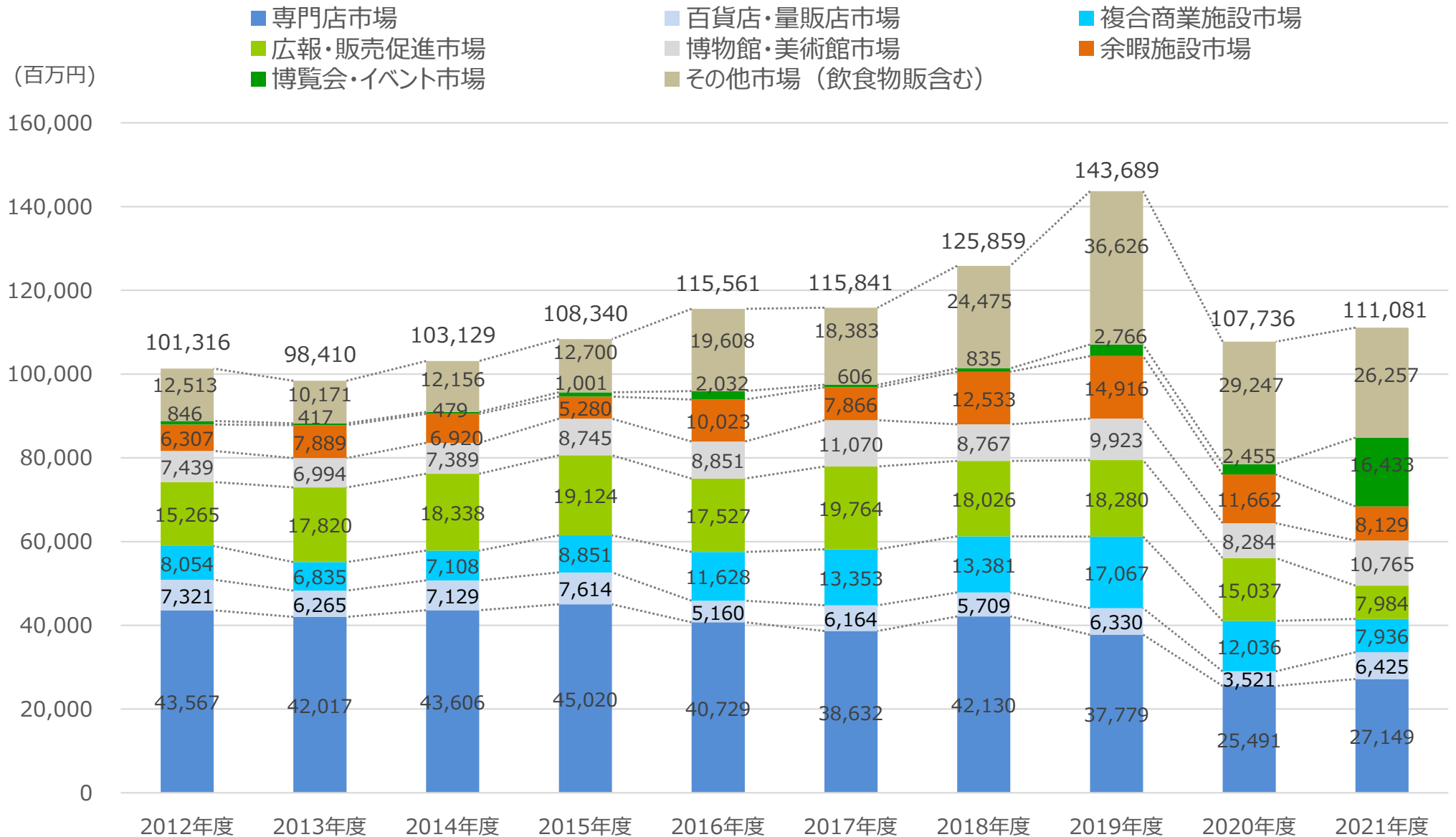


【通期推移】 受注高・受注残高



(注) 飲食・物販事業は受注概念が異なるため、掲載していません。

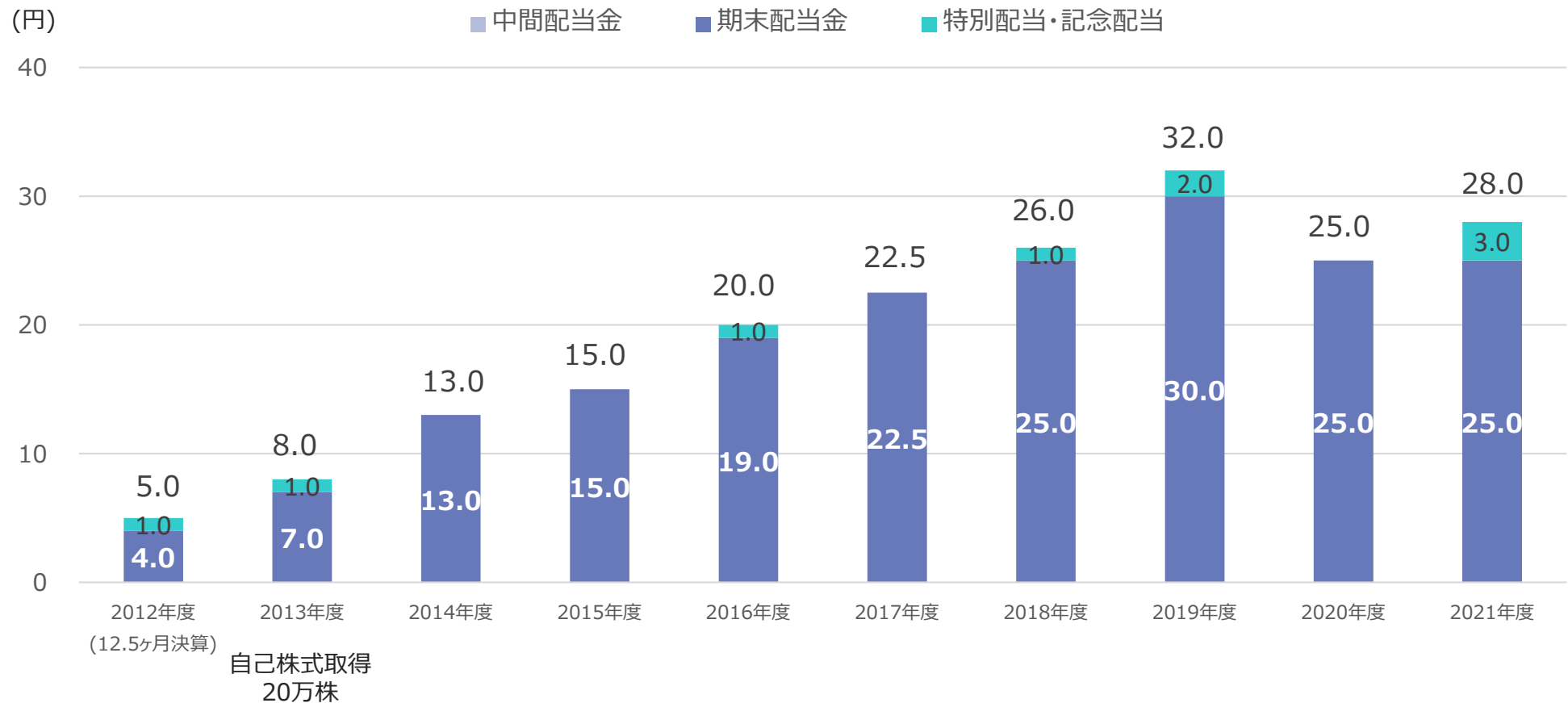
【通期推移】 市場分野別 売上高



(注) 飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。

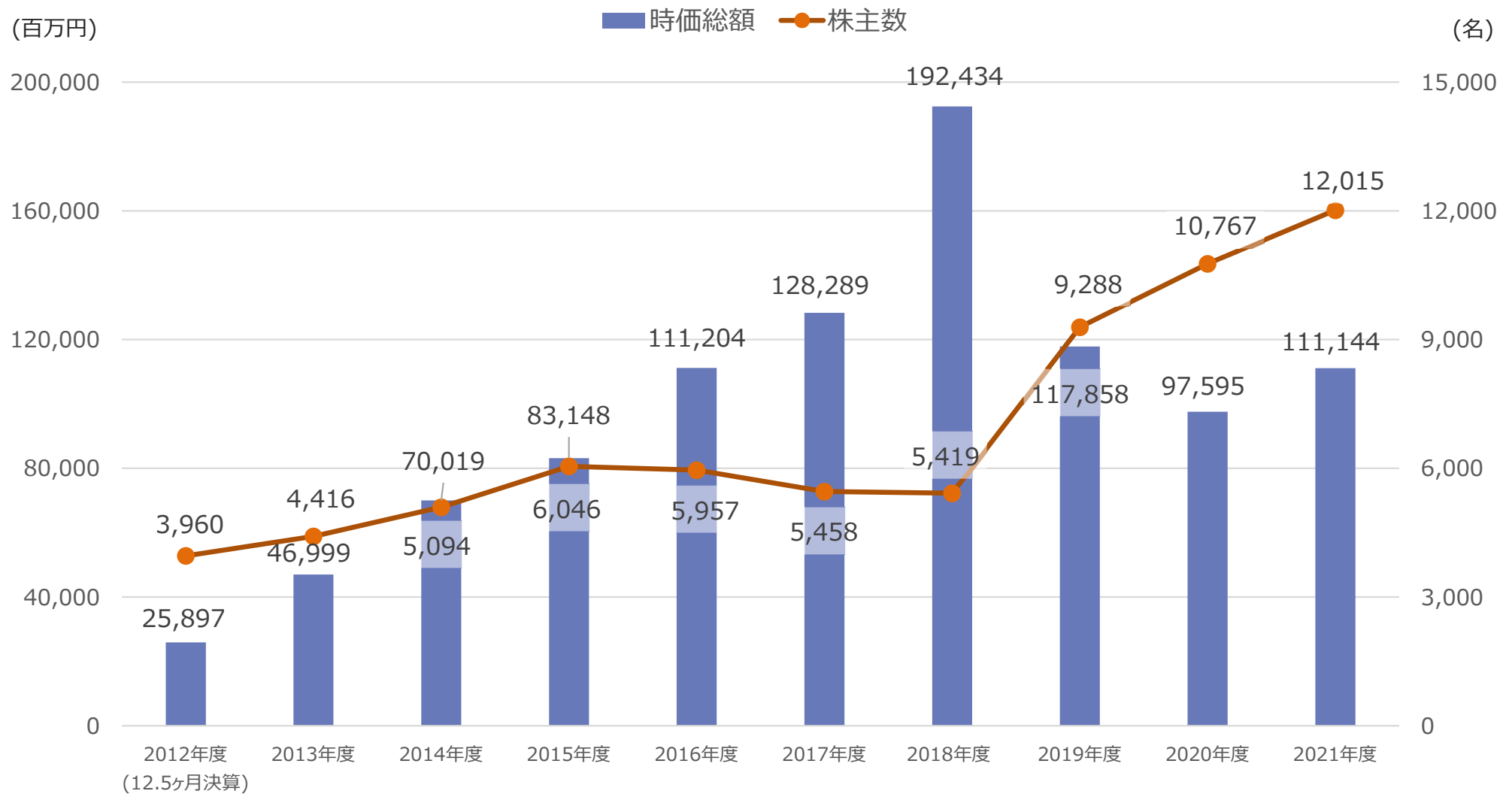
【株式情報】株主還元策と配当金の推移

※2019年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施。下記は2010年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して配当金、株価を算定。



配当性向	44.9%	48.4%	45.3%	43.4%	44.0%	44.4%	42.9%	45.7%	90.6%	78.2%
株価最高値	221.0円	526.0円	608.0円	966.0円	995.0円	1,324.0円	1,667.5円	1,670.0円	1,031.0円	1,148.0円
株価最安値	114.0円	213.0円	332.5円	551.0円	663.5円	901.5円	1,017.5円	961.0円	642.0円	787.0円

【株式情報】 時価総額と株主数の推移

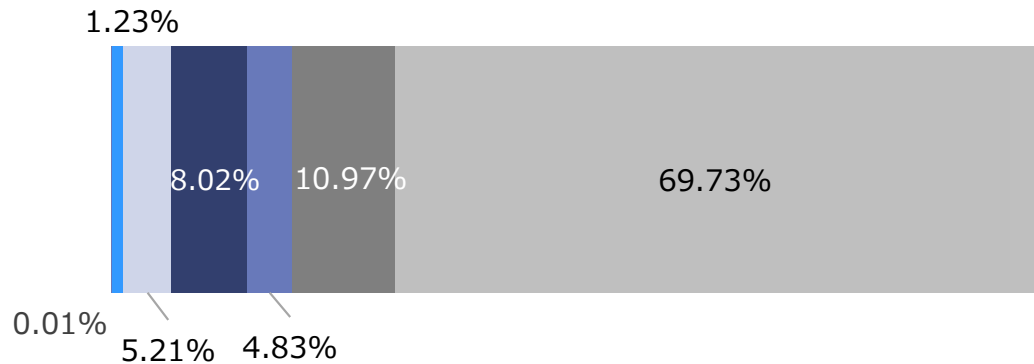


※各年度末における時価総額、株主数

【株式情報】株主構成 (2022年8月31日現在)

■ 所有株数別株式の分布状況

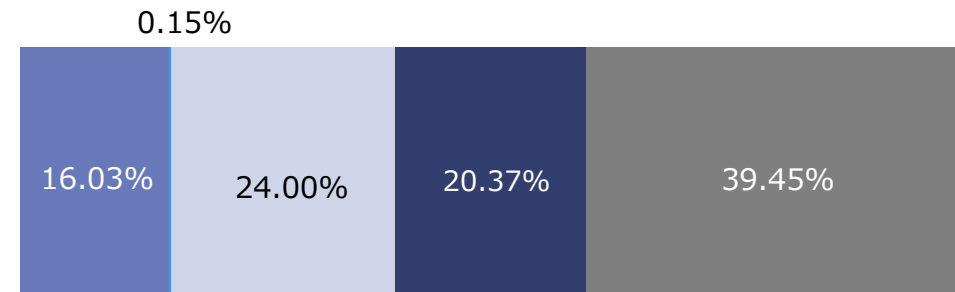
- 100株未満
- 1,000株以上10,000株未満
- 50,000株以上100,000株未満
- 500,000株以上
- 100株以上1,000株未満
- 10,000株以上50,000株未満
- 100,000株以上500,000株未満



100株未満	3,464名	15,586株
100株以上1,000株未満	5,564名	1,479,300株
1,000株以上10,000株未満	2,174名	6,241,985株
10,000株以上50,000株未満	454名	9,613,921株
50,000株以上100,000株未満	84名	5,790,963株
100,000株以上500,000株未満	64名	13,150,852株
500,000株以上	29名	83,603,981株
	11,833名	119,896,588株

■ 所有者別株式の分布状況

- 外国人
- 証券会社
- 金融機関
- その他法人
- 個人・その他



外国人	214名	19,224,077株
証券会社	21名	179,557株
金融機関	24名	28,773,380株
その他法人	155名	24,420,399株
個人・その他	11,419名	47,299,175株
	11,833名	119,896,588株

(注) 上記の分布状況はいずれも自己株式数を含んでいます。

3. 当社グループの概要

経営理念

われわれは、人間尊重に立脚し
新しい価値の創造によって
豊かな人間環境づくりに貢献する

ノムラのいう人間尊重とは

ノムラは、生活者である人間の多様な価値観に対応し、快い生活環境を創造する。
また、ノムラは社員の人間性を基盤にして、働きがいのある自己実現の場をつくりあげる。

ノムラのいう新しい価値の創造とは

ノムラは、人と人、人との、人と情報が交流する新たな機能と可能性を追求し、最適な
集客貢献と空間創造を実現する。

ノムラが目指す企業像とは

ノムラのおくりだすものは、人間環境の質的向上をはかる生活文化そのものである。
ノムラはこの仕事を通じて、環境創造産業のリーダーとなる。

会社概要

創設 1892年(明治25年) 3月
業立 1942年(昭和17年) 12月
上場市場 プライム市場(9716)
資本金 64億97百万円
売上高 1,110億81百万円(2021年度)
従業員数 (2022年8月末日現在)

乃村グループ全従業員2,460名(契約社員含む)
 連結1,941名(正社員) 単体1,295名(正社員)

連結子会社 グループ会社 6 社 (2022年3月1日現在)

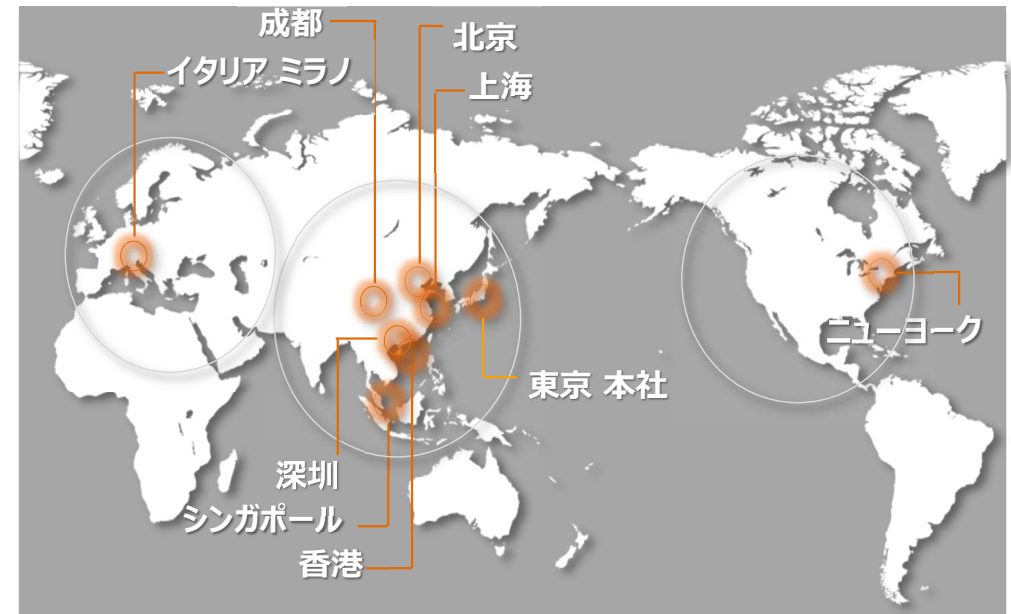
事業内容

ディスプレイ業 (※ 総務省 日本標準産業分類で定める事業)
 集客環境づくりの調査・コンサルティング、企画・デザイン、
 設計、制作施工ならびに各種施設・イベントの活性化、
 運営管理

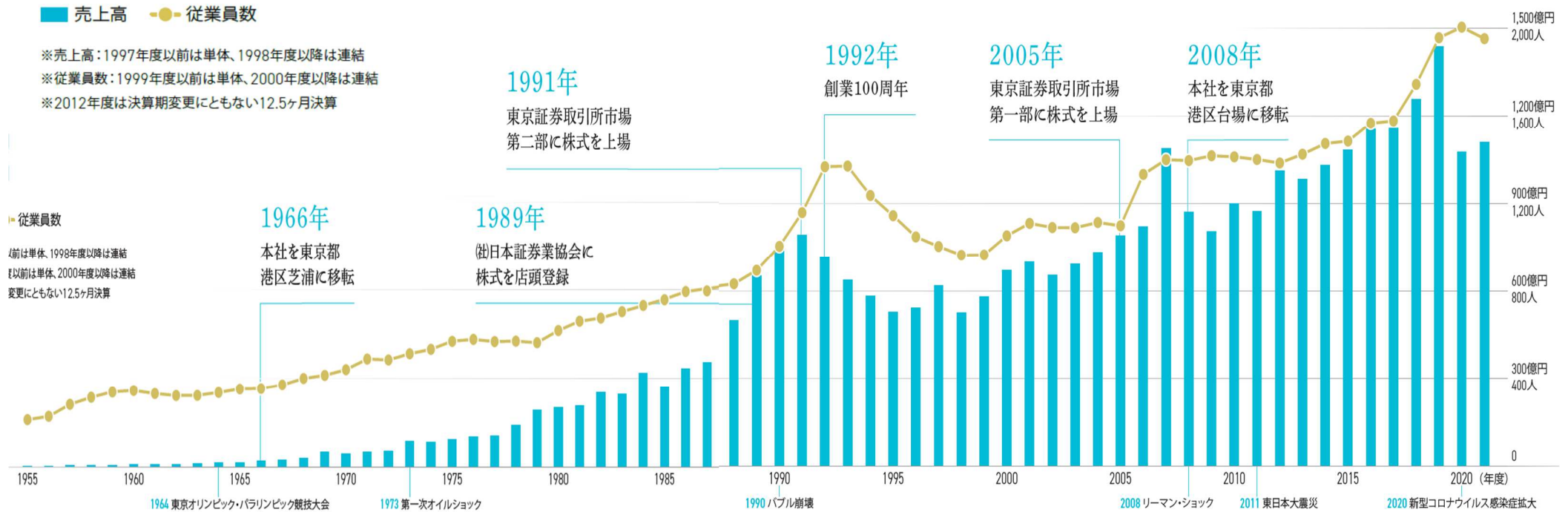
国内拠点



海外拠点



乃村工藝社の歴史

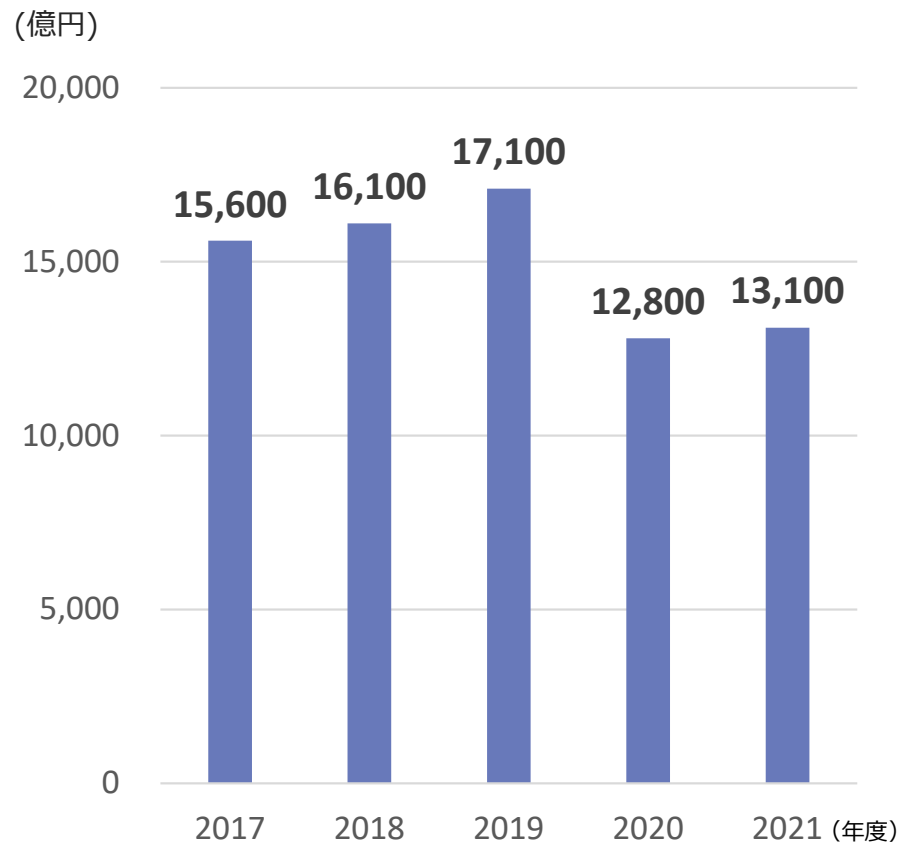


<p>1892年</p> <p>乃村泰資が高松で創業、芝居小屋の大道具方として活躍</p>  <p>創業者 乃村泰資</p>	<p>1892年～1945年</p> <p>大衆娯楽から博覧会・展示装飾への展開</p> <p>イベント(菊人形・国技館や靖国神社の催し・博覧会)・百貨店</p>  <p>両国国技館菊人形「十二段返し」1924年頃</p>	<p>1945年～1969年</p> <p>経営近代化の始動とディスプレイ業の確立</p> <p>百貨店・博覧会・美術展・遊園地</p>  <p>高島屋大阪店の店頭装飾 1947年</p>	<p>1970年～1989年</p> <p>事業拡大と経営基盤の強化</p> <p>万国博覧会・商業施設・博物館・展示会・企業PR館・ショールーム</p>  <p>万国万国博覧会 1970年</p>	<p>1990年～2012年</p> <p>市場環境の変動を超えて「選ばれるノムラ」へ</p> <p>ブランドストア・チェーンストア・集客装置・指定管理者と運営事業・まちづくり</p>  <p>日テレ大時計(宮崎駿デザイン) 2006年</p>  <p>東京ソラマチ® 2012年</p>	<p>2013年～現在</p> <p>Prosperity Partner</p> <p>お客様の事業繁栄を実現するパートナーとして</p> <p>複合商業施設・ホテル・テーマパーク・オフィス・地域創生・デジタル分野</p>  <p>日本オリンピックミュージアム (電通・乃村工藝社・電通ライブコンソーシアム) 2019年</p>
--	---	--	--	---	---

ディスプレイ業界を取り巻く市場環境

■ディスプレイ業界の市場規模

新型コロナウイルス感染症の影響により、
2021年度は約1兆3,100億円と推定



出典：(株)矢野経済研究所

■ディスプレイ業界の市場領域とそれを取り巻く業界

建設業、不動産業や広告業、イベント産業などの業界と密接に関係



ディスプレイ業界の市場シェア

売上を拡大し、業界トップシェアを堅持

【ディスプレイ業界上位30社の売上合計に占める上位10社の占有率】

2011年度				2016年度				2021年度			
順位	社名	売上高	占有率	順位	社名	売上高	占有率	順位	社名	売上高	占有率
		(百万円)				(百万円)				(百万円)	
1	乃村工藝社	87,464	15.0%	1	乃村工藝社	115,561	15.4%	1	乃村工藝社	111,081	17.2%
2	丹青社	52,049	8.9%	2	丹青社	70,781	9.4%	2	丹青社	62,714	9.7%
3	スペース	32,970	5.7%	3	スペース	49,243	6.6%	3	三井デザインテック	47,254	7.3%
4	J.フロント建装	29,261	5.0%	4	ラックランド	34,954	4.7%	4	スペース	42,408	6.6%
5	ジーク	26,086	4.5%	5	高島屋スペースクリエイツ	34,520	4.6%	5	ラックランド	35,887	5.6%
6	三井デザインテック	21,184	3.6%	6	J.フロント建装	33,624	4.5%	6	セレスポ	27,012	4.2%
7	エイムクリエイツ	20,834	3.6%	7	三井デザインテック	32,749	4.4%	7	J.フロント建装	23,275	3.6%
8	船場	20,169	3.5%	8	シミズオクト	32,448	4.3%	8	ウチダエスコ	21,105	3.3%
9	バウハウス丸栄	19,822	3.4%	9	ジーク	32,429	4.3%	9	船場	19,271	3.0%
10	高島屋スペースクリエイツ	19,075	3.3%	10	三越伊勢丹プロパティデザイン	30,007	4.0%	10	パルコスペースシステムズ	18,142	2.8%
上位30社の売上合計		582,384	100.0%	上位30社の売上合計		749,871	100.0%	上位30社の売上合計		645,282	100.0%

※ 上記は当社集計による数値です。

乃村工藝社の事業

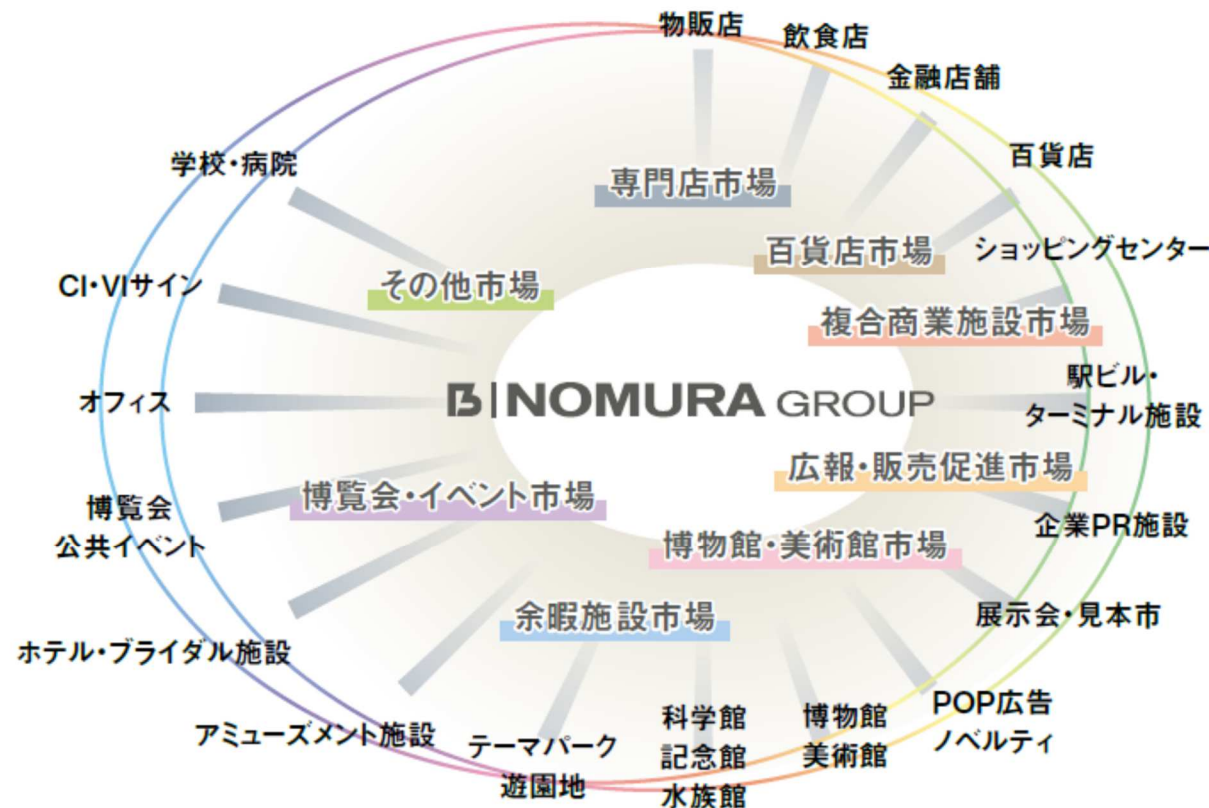
創業以来、約130年にわたり「人が集まる空間づくり」をプロデュースしてきた、
集客創造におけるプロデューサー集団

1

調査・企画
・コンサルティング

2

デザイン
・設計



3

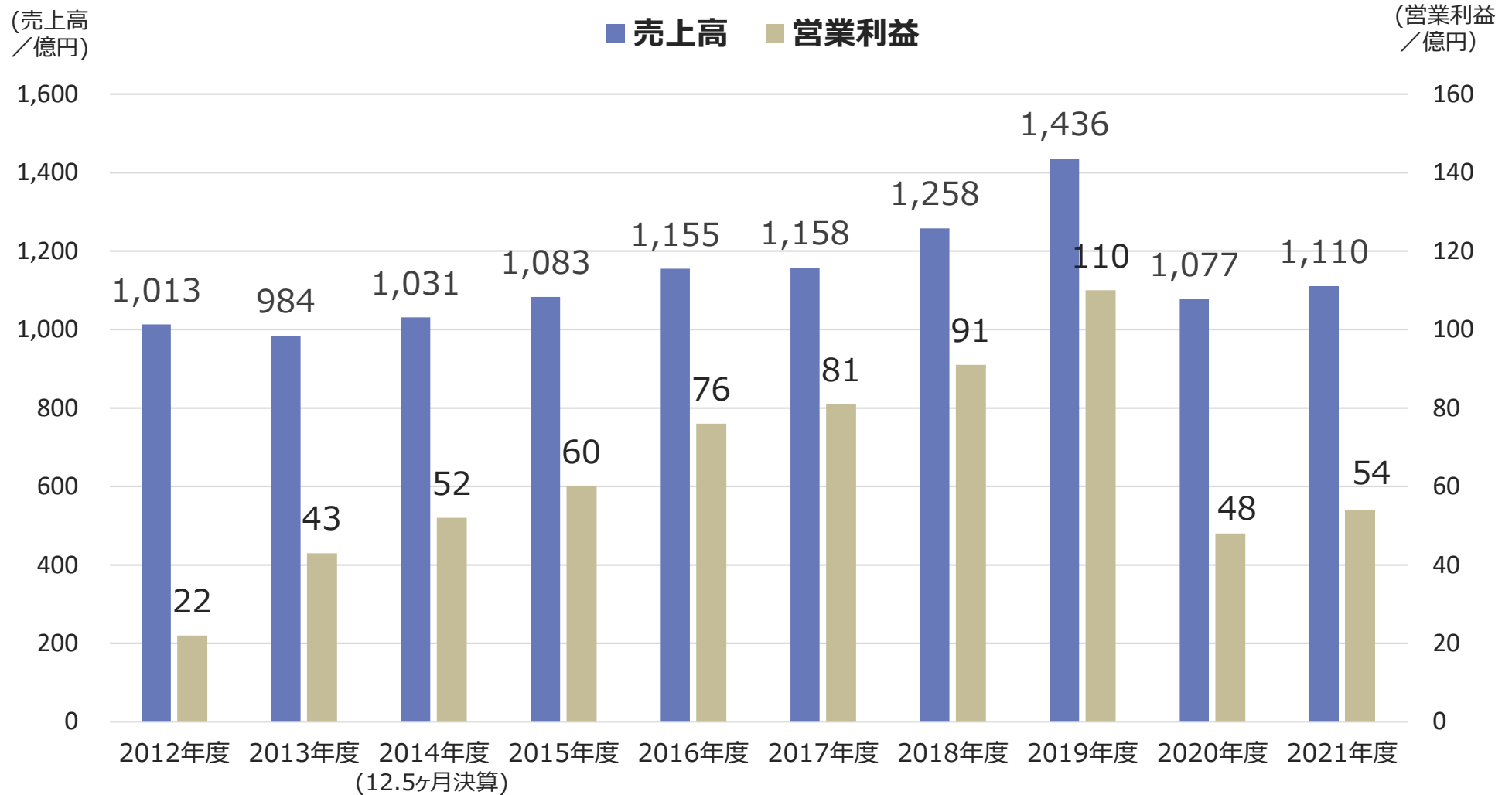
制作・施工

4

運営管理

商業施設から、ホテルやオフィスなどの各種施設に加え、博物館・美術館、ショールームなどの展示、
博覧会・イベントといったプロモーション分野まで幅広く展開

通期業績の推移



■ 2011年3月 東日本大震災	■ 2013年9月 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会決定	■ 2020年 新型コロナウイルス感染症拡大
■ 2012年5月 東京スカイツリー開業	■ 2016年 訪日外国人が初めて2,000万人を突破	

乃村工藝社の強み

業界No.1を創り出す3つの強み

① 総合力

国内外で、大型案件を企画から運営まで手掛けられる体制

- ・国内拠点 **9都市**
- ・海外拠点 **8都市**

- ・グループ会社 **6社**(2022年3月1日現在)
- ・協力会社体制 **500社以上**

② クリエイティブ力

企画・デザインによる差別化

- ・プランナー&デザイナー **614名**
- ・一級建築士 **129名**
- ・デザインアワード受賞数 **64**

③ プロダクト力

高品質を実現する制作体制

- ・プロダクトディレクター **560名**
- ・一級建築施工管理技士 **318名**

お客様からの高い信頼、安定した顧客群

年間のプロジェクト件数
11,987件

年間の顧客数
2,789社

継続顧客の比率
81.1%

各業界の主要
企業がお客様

株式会社 乃村工藝社

(証券コード：9716)

<https://www.nomurakougei.co.jp/>

IR・株式に関するお問い合わせ
IR・ガバナンス推進部
(ir@nomura-g.jp)